

令和7年度 山梨県河川マイクロプラスチック調査業務 報告書 概要版

1. 調査の目的

県内の富士川水系及び相模川水系の河川におけるマイクロプラスチックの状況調査を行い、調査結果を周知することで、現在世界的に課題となっているマイクロプラスチックに対する県民理解を深めることを目的としている。

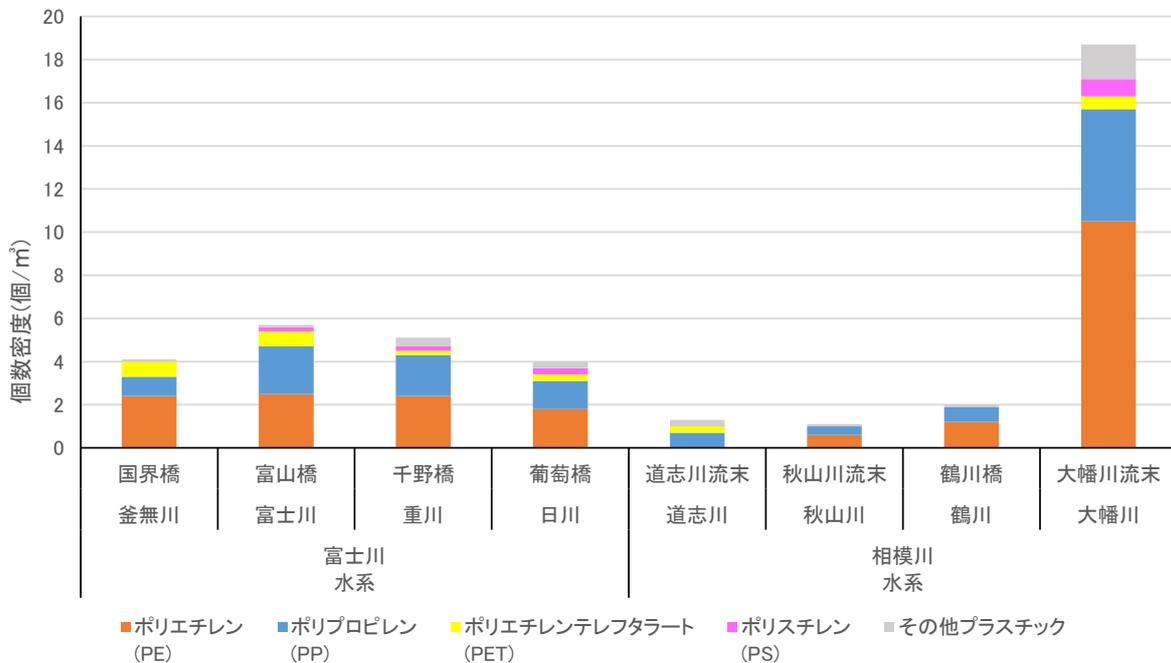
河川マイクロプラスチックの調査を行う必要性

世界中の海域で5 mm未満の微細なプラスチック類（以下「マイクロプラスチック」という。）が確認され、海洋環境等への影響が懸念されている。我が国周辺海域においてもマイクロプラスチックが確認されており、発生源対策の検討が進められているところである。これらの検討のためには、陸域から海域へ流出するマイクロプラスチックの分布実態を把握することが必要である。

（「河川・湖沼マイクロプラスチック調査ガイドライン」令和6年3月 環境省水・大気環境局水環境課 より引用）

2. 河川マイクロプラスチックの分布実態（富士川水系・相模川水系）

マイクロプラスチックの材質別捕集個数密度 検体採取日：令和7年7月22日、23日、24日



調査結果概要

(1) 個数密度

① 富士川水系

富士川水系内で最も個数密度が高かったのは富士川の富山橋の5.6個/m³であり、釜無川の国界橋及び日川の葡萄橋が4.0個/m³と最も低かった。

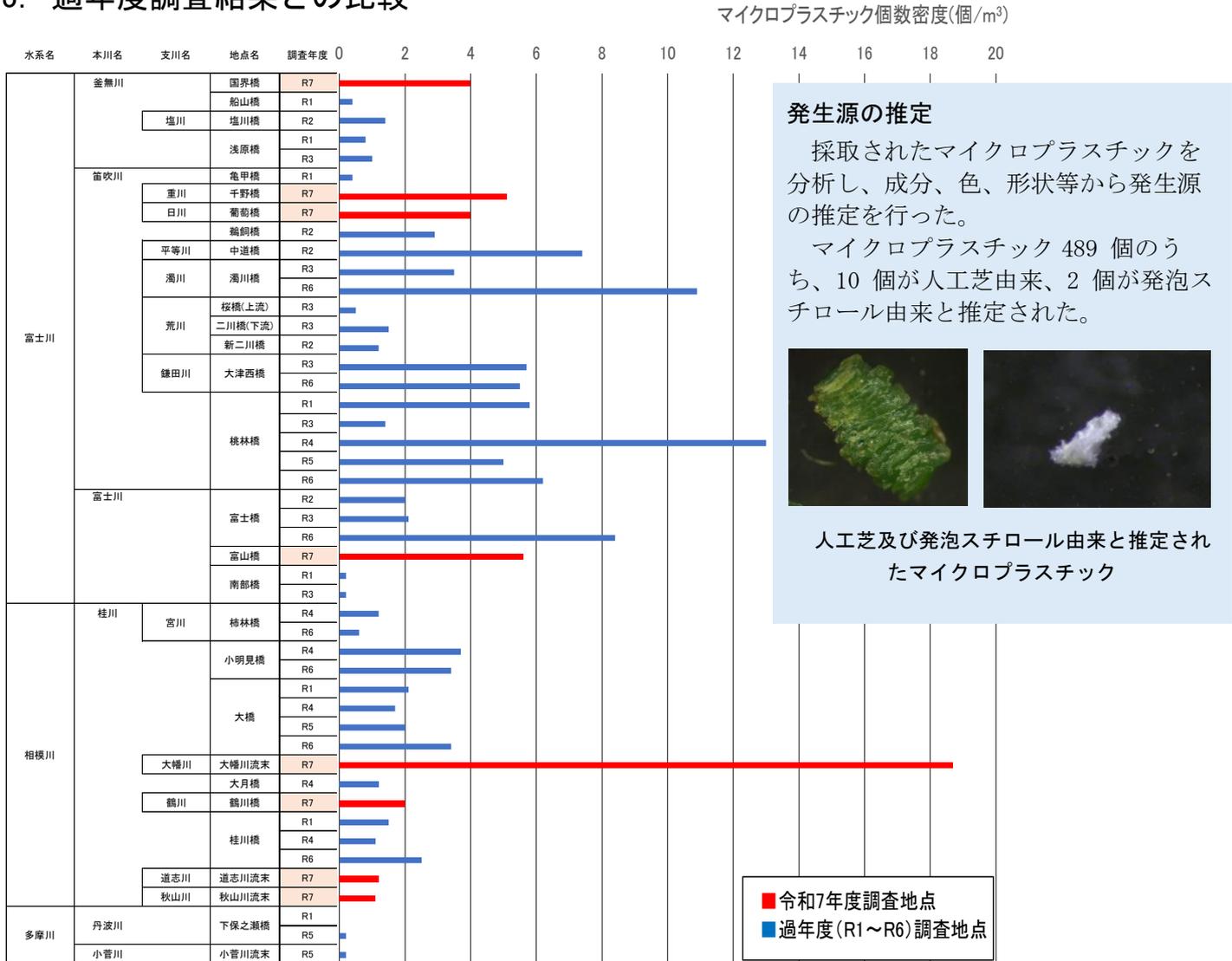
② 相模川水系

大幡川の大幡川流末の個数密度が18.7個/m³であり、今回調査した8地点のうち、最も個数密度が高かった。秋山川の秋山川流末が1.1個/m³と最も低かった。

(2) 材質割合

各調査地点で確認されたマイクロプラスチックの主な材質は、ポリプロピレン(PP)、ポリエチレン(PE)、ポリエチレンテレフタレート(PET)、ポリスチレン(PS)であり、全地点でPPとPEの合計が過半を占めた。

3. 過年度調査結果との比較



4. 河川ごみの散乱状態

調査地点周辺において、①ポイ捨てされたと推測されるごみ、②不法投棄されたと推測された農業系のごみ、③風で飛ばされたごみや河川を流下するごみ等、意図しない流出と推測されるごみが見つかった。

